

2016/12

リサーチ

No.125

通巻

182

平成28年12月22日

発行者
北海道公民館協会
会長 川上 満
〒060-0002 札幌市中央区北2西7
かでる2・7 (9F)
道立生涯学習推進センター内
011(271)2825



北海道公民館協会 会長 川 上 満

首長部会と公民館のやくわり

今年は台風の多い年がありました。八月には四つの台風が北海道上陸接近して記録的な豪雨等に見舞われ甚大な被害を被りました。

心からお見舞い申し上げますと共に一日も早い復旧、復興をご祈念申し上げます。

さて、北海道においては、全国を上回るスピードで人口減少が進行しております。しかし、これまで地方においては何も対策を講じ無かつたわけではなく、これまで地域の特色を生かした様々な施策を最大限に取組んできました。

何もしなければ更に人口は減り続けていたものと思われます。

我が町においても鉄道がなくなり、営林署がなくなり木材工場がなくなりなど人口のピーク時よりも人口は半減しております。

人口減少が続くと自主財源であります町税が減り、子供の数が減り保育園をはじめ学級数も減り、地元購

買力も低下し、さらには地域コミュニティーも希薄化しているのが現状であります。

これは全国的な傾向とはいえ地方の消滅が現実的な危機として認識され、これまで以上に北海道の各地域が活き活きと元気な町づくりを目指して各自治体が様々な挑戦がはじまっています。

平成二十七年四月から教育委員会制度が大きく改正され首長は教育長、教育委員とともに教育大綱を策定し教育に関する重要事項について協議することとなりました。

これを契機に当協会において、今年度から首長部会を立ち上げさせていただきました。今年の七月に北海道公民館協会市町村長等研修会を開催したところ公務多忙にも関わらず、多數の参加のもとに「地域の元気なひとづくり」をテーマに地方創生を進める中でも教育との関わりと共に、その町づくりのコーディネイ

タ一役としての公民館の活用をどう進めることについて研修されました。今後とも、全国の先進事例等に学び、情報交換し、今後の進むべき政策の在り方等について協議を重ね、町づくりに寄与して、その輪を広げてまいりたいと思います。

今年度は年に一度「集う場」として全国公民館研究集会北海道大会と鹿部を十月六・七日の二日間、渡島管内鹿部町で開催されました。本大会では、「地域創成に求められる公民館の役割」首長部会と協働の在り方を問う」を研修テーマに熱心に熟議がなされ盛会裏に終了できました。鹿部町並びに教育委員会のご協力に心から感謝とお礼申し上げます。

結びに今年も残すところ僅かとなりましたが、当協会の運営に多くの皆様に今年一年、大変お世話になりました。

今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようにお願い申し上げます。

また、来年度は全国公民館研究集会北海道公民館大会は、釧路市で予定されています。成功させるためにも皆様のご支援ご協力お願いいたします。

「公民館が担う未来への責任」

公益社団法人全国公民館連合会

会長 石川正夫



北海道のみなさん

こんにちは！

今年は北海道公

民館大会で鹿部町

にお世話になつてまいりました。豊かな自然と間欠泉に感動しながら、会場での熱意あふれる講師の先生や

参加されたみなさまの様子を拝見することができたことにお礼を申し上げます。ありがとうございます。

さて、国で公民館の設置が推奨され、全国津々浦らに公民館が普及しはじめてから七〇年が経過しました。

平成二十九年は、これまでの実践の上に立つて、気持ちを新たに公民館活動の推進に邁進して参ります。

地方創生関連法が施行されて、さまざまな動きが見られます。その

中で地域運営組織の推進などが計画され、平成三十二年に三千か所の設置を目指しているとのことです。こ

のことは地域活動の推進がさらに図られることであり、社会教育を通じた地域社会の健全な発展を目指すことを本旨とする本連合会としては歓迎しています。

その一方で、本来公民館がこのようない多様な地域社会の振興に対応することが求められるはずであるにも関わらず、公民館を廃する動きが散見されるなど、その推進の状況には一択の懸念が存在します。「公民館は不便である」、「公民館は何もできない」などの誤った認識については、「公民館はあらゆることに対応できる」とする、正しい情報を広めています。

さらに公民館側の問題としても各地域の動きに対して必要な公民館数の設置促進や、人的体制の整備、対応スキルの向上など、公民館自体が抱える解決すべき課題は多々存在します。

このように地域運営組織では住民のみなさま自身が地域課題解決に直

接・間接的に取り組むことになります。

文部科学省では先駆けて「公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム（通称・公民館GP）」を平成二十六年から二年間実施しました。公民館GPで掲げられた地域

課題は①「若者の自立・社会参画支援プログラム」、②「地域の防災拠点形成支援プログラム」、③「地域

人材による家庭支援プログラム」、④「地域振興支援プログラム」、⑤

「その他 地域の教育的資源を活用

した地域課題解決支援プログラム」の五つです。

これらは現在推進されている方

創生とも密接に関連するものであり、

非常に有効なプログラムとなり、全

国各地で実施されています。その

事業で得られた延べ二百二十一事業

から「学びを通じた地方創生コン

ファレンス」を全国展開することで

地域課題解決力の底上げを図ろうと

しています。北海道でも川上満会長

を実行委員長として、多くの力を結

集して「別海町」、「北見市」、「安平

町」、「富良野市」、「札幌市」で開催

されました。今年度も札幌市開催に

向けて準備が進められており、一月

には多くの参加者で賑わうこと

でしょう。

個々の事業実施にあたっては、関係各位の大変なご苦労を伴うもので

ありましたが、このように結実する

ことは文部科学省での公民館活動振

興への強い支援となつていることを

感じます。また、平成二十八年十一

月二日付で「公民館の耐震化の促進

について（通知）」が全国の都道府

県及び指定都市教育委員会の社会教

育主管課長あてに出されました。避

難所となる公民館が多数ある中で、

公民館の耐震化が推進されることに

国が取り組んでいたたけることに、今後、さまざまな支援が計画されることを願い感謝を申し上げます。

さて、本連合会で発行している「月刊公民館」の新年一月号では「防災と公民館」を特集しております。北海道公民館協会でも防災についての研修機会を重点的に設けるなど、地域の人々の生命や財産を守るために取り組みを進めています。

東日本大震災から六年が経過しようとしています。その後も、地震や台風、豪雨などの多くの自然災害が我が国を襲いました。北海道のみなさまの公民館活動を通じて防災、減災がさらに達成されることを願っております。

来年の北海道での公民館大会は平成二十九年十月十二～十三日に釧路市で開催され、企画されているプログラム案にはみなさまのやる気がみなぎっているのが伝わってきます。公民館大会は北海道以外でも宮城県仙台市、群馬県前橋市、石川県金沢市、兵庫県神戸市、高知県高知市、大分県大分市と合わせて七ヶ所での開催となります。公民館の存在意義をさらに大きく盛り上げるためにみなさまのお力添えをいただければ幸いです。

来年の北海道での公民館大会は平成二十九年十月十二～十三日に釧路

市で開催され、企画されているプログラム案にはみなさまのやる気がみなぎっているのが伝わってきます。

公民館大会は北海道以外でも宮城県仙台市、群馬県前橋市、石川県金

沢市、兵庫県神戸市、高知県高知市、大分県大分市と合わせて七ヶ所での開催となります。公民館の存在意義

をさらに大きく盛り上げるためにみなさまのお力添えをいただければ幸いです。

全国公民館研修会 鹿部町で開催

本大会は、今年度より全国公民館研究集会の冠を全国七大会に付け開催することとなりました。その記念すべき節目の大会を道南の鹿部町を会場に開催しました。

また、本大会は、北海道の公民館大会も六十回という節目の年でありました。

当日は、道内外からの参加者約五十名の参加者を見込んでいましたが、台風十五号の影響もあり、若干の減員となってしまいましたが、盛況のうちに幕を閉じる事ができました。

一日目は、研修の前に開会式を行いましたが、その中でこれまでの功績を称え、七名の方が全国公民館連合表彰を受賞され、代表して全国公

平成二十八年度の「第三十八回全国公民館研修会北海道大会・第六十回北海道公民館大会inしかべ」は、「地域創生に求められる公民館の役割～首長部局と協働の在り方を問う～」というテーマのもと、十月六日・七日の日程で、北海道鹿部町の鹿部中央公民館を会場に開催しました。

民館連合会優良職員表彰を受賞されました占冠村公民館館長の藤本武氏が被表彰者を代表してあいさつをされました。



歓迎の言葉：鹿部町副町長 佐藤明治

話いたしました。視点は、「地方創生に向けた取組」「経済・財政一體化改革の道筋」「文部科学省の取組」の三つの視点から講話を頂きました。

多い「コミュニティースクール」に係る説明を、北海道大学学務部長であり、文部科学省コミュニティースクールマイスターの出口寿久氏よりご説明いただきました。

一日目最後の研修では、出囗寿久 氏に引き続きコーディネーターを行つていただき、「地方創生に問われる首長部局と社会教育の関わり」というテーマを掲げ、パネルディスカッションを行いました。（パネラーは左記とおり）一日目最後の研修にもかかわらず、多くの質問等が飛び交い、有意義な時間となり一日目の研修を閉じました。

閉会式では北海道公民館協会道東
ブロック副会長宮下誠氏より次年度
開催のお話をいただいて、本大会の
全日程を終了しました。

また、余談ではございますが、左
記の写真は、鹿部中央公民館を会場
に開催されました教育委員会主催事
業後に、有志で立ち上がりました
サークルが、今回の大会のアトラク
ションで会場を盛り上げてくださつ
た様子です。

・ 牧野篤塾・社会教育と地域創生 ・ 李泰榮塾・防災と地域創生

・宮崎県綾町長・前田禪氏
・和歌山県田辺市(株)秋津野代表取締役社長・玉井常貴氏
・北海道庁総合政策部地域創生局地域づくり担当局長・浦島浩史氏

二日目は、塾形式の三つの分科会に分かれ、各分野で研修を深めました。

その後、再度一堂に会して、それぞれの塾で研修した内容を共有し研修の全日程を終了しました。

に分かれ、各分野で研修を深めました。



アトラクション：チアリーディングサークル Ange

道公民館協会活動への雑感

理事 早瀬良樹

私は今年初めて道公民館協会の理事を拝命し教育委員会を退職して一般市民として協会に携わる機会を頂きました。

本会の今までの活動に触れて、退職後のんびり暮らしている私は私の環境も手伝つて、今までに感じるこ

との出来なかつた、多くの一生懸命への出会いと熱意溢れる方々との触れ合いに、改めてパワーと驚きを感じながらの、本会への参加活動期間となりました。

一つは、全国公民館連合会石川会長のお話から、全国の都道府県公民館協会のリーダー的役割を北海道公民館協会が担つているとの事でした。

教育委員会制度の改革により、教育委員会と首長が一体となつた「総合教育会議」が義務設置され、今まで以上に首長部局が教育行政と協働で、地域教育を推進する改革が行われています。

そんな中で本年度の新事業として、公民館として、本協会が主催として全国に先駆け市町村の首長を対象にした首長研修会が実施されました。

内輪の立場からの感想になりますが、第三十八回全国公民館研究大会



参加した首長からは大変好評を頂き、わざわざ電話での応援メッセージが飛び込むほどの反響があり、本協会での最初への挑戦に関係者全員が安堵し、結果としてタイムマリーな事業評価を実感することが出来、今後の活動に元気と一定の方向も見えたように感じました。

二つ目は協会事業に参加協力を頂いている講師陣の多彩な顔ぶれに驚きです。

各事業に出向いて頂いている講師陣は、全国的に活躍している若手の講師から、数々の実践事例を持つ今

が旬のベテラン講師まで、その多彩な布陣に驚愕します。

三つ目は、忙しい町村長の職を担いながら、積極的に本協会事業に参加し、本会をリード下さる川上会長のリーダーシップです。町村長とい

北海道鹿部大会では、全国の一線で活躍する講師塾方式により、地方創生に向けて沢山の気付きを頂きまして。私の住む寿都町からの参加者は防災への社会教育での取り組みについては重要ではあるが、取り組みづらいテーマと感じていたとの事でした。しかし「本大会に参加し、災害学習が本当に身近になった」と嬉しい参加者の感想を頂き、講師先生のお力添えにより、また、一人塾生が増えたことに、私も拍手を贈つています。

鹿部大会の運営では、今まで都市部での開催が多かったように感じましたが、久々の地方開催にも拘らず、鹿部町により出来ない大会運営に感心させられました。

川村教育長をトップに管理職が大会運営全般を詳細に把握し、若い職員たちが現場で発生する、様々なイレギュラーを必死で受け止め処理する姿にチームワークと目的達成への各職員の熱意に感動しました。

心から『ご苦労様』を大会に携わる全ての関係者から一齊に届けられ、大成功に終わった鹿部大会でした。



う激務の中を本会の開催事業に出来る限りの時間を費やし、関係者と時間を見わない姿勢が、本会のエネルギーを支え、関係者が事に向かうとの出来る大きな要因だと、何時も頭が下がります。

今私は現職とは違い、少し余裕がある時間の流れの下で暮らしています。

本会への参加は社会教育大好きな人間として、懐かしく心地いい社会参加のボランティア活動です。

公民館活動に関わる多くの人との触れ合いは、今の生活で最も充実した時間であり改めて全道の公民館協会に携わる皆さんの元気に、「乾杯」で締めくくり、勝手な雑感とします。

公民館の住民目線での首長部局との連携の方向性

北海道公民館協会理事
北海道大学学務部長

出口寿久

現場を預かる教育長はじめ教育委員会の皆さんと接する中で、私なりに感じてきたことを申し上げさせていただきたいと思います。

一昨年の国の総合戦略に続き、作年度にはほとんどの自治体において市町村版の総合戦略が策定され、実質今年度から本格的に地方創生に向けての取り組みが始まつたと言えます。いくつかの市町村の総合戦略を読み比べると、その規模によるところも大きいと思いますが、地域住民との距離の違いを垣間見ることができます。それはおそらく日頃の業務における地域住民と行政との距離感を表しているように思われます。

また、公民館には、地域活性化の中核機関、またリーダーあるいはコーディネーターとしての役割もあります。危機感を持った地域住民が自分たちで何ができるか模索する場を提供することも必要です。

「地域活性化」や「地方創生」のキーワードを取り上げると教育委員会の方々の中には「それは首長部局の企画やまちづくり担当の仕事だ」と言われることがあります。確かに総合戦略の策定や交付金の要求作業などは、市町村行政全般に渡るものであり、首長部局しか出来ないと

これまで十年來、全道大会に講師としてお招きいたただくなど北海道公民館協会の皆さんと関わらせていましたが、縁あって作年四月から札幌勤務となり、協会の運営のお手伝いをさせていただいております。また、本務の傍ら、公民館職員研修等での講演やコミュニティ・スクールの制度説明のご依頼を多數いただきましたが、道内市町村にお伺いする機会を得てきました。

地方創生の旗を振るのは行政ですが、主役は地域住民でなければ本当の地方創生が進められていくとは言えないのではないかでしょうか。住民のものが今後の人口減少を自分たちの問題として認識することが必要です。そのためには地域住民にその現実を知つてもらう機会が必要になつてきます。その機会を提供するには誰の役目でしょうか？

歴史から探ることができる本来の公民館の役割に地域の活性化とともに学習機会の提供があります。趣味、教養の講座を設ける事も大事ですが、いわゆる「現代的課題」の一つとして「地方創生」に関する講座を設けることは最も重要なことではないでしょうか。

また、公民館には、地域活性化の中核機関、またリーダーあるいはコーディネーターとしての役割もあります。危機感を持った地域住民が自分たちで何ができるか模索する場を提供することも必要です。

「地域活性化」や「地方創生」のキーワードを取り上げると教育委員会の方々の中には「それは首長部局の企画やまちづくり担当の仕事だ」と言われることがあります。確かに総合戦略の策定や交付金の要求作業などは、市町村行政全般に渡るものであり、首長部局一小出張ないこ

しかし、地域住民に寄り添つてこの問題について議論する場（いわゆる「熟議」）を設定できるのは公民館の他にありません。折しも教育委員会制度が変わり、総合教育会議が設けられ、これから教育委員会は首長とともに教育大綱を策定することとなっています。これまで以上に首長と教育について議論する場が増え、首長部局との連携も容易になるとおもいます。これまで教育委員会の枠の中で行つてきた公民館活動をまちづくりの担当部局とともに取組む事ができるのです。そこで一つ忘れてはいけないのが住民目線です。地域住民からすると「まちづくり」や「公民館活動」がどの部署で行われてるかはどうでもいいのです。やるべきことをきちんとやってくれればいいと住民は思っているのです。だからこそ、部局の壁を取っ払い、いわゆる縦割り行政から脱却し、住民のために何をすべきかを真摯に考え、その上で役割分担や協働の取り組みを模索すべきなのです。例えば「津波警報が発令されたら逃げないといけない」という意識を住民が持つには防災教育を受けてもらうことが必要です。これまで、防災は首長部局の仕事だからといってこれまで社会教育関係者は見守るだけでした。しかし地域住民を対象に行う防災教育は、大人に対する教育なのですから

社会教育が当然関わるべきではないでしょうか。だからこそ防災をはじめとした現代的課題と呼ばれるものは首長部局と一緒にになって取組むことが必要なのです。

各市町村で地方創生総合戦略に位置づけられている施策は、雇用の仕組み作りや結婚・出産・子育てしやすい環境作りをはじめとして多岐にわたっていますが、我々教育関係者にできること又は教育にしかできないことは何でしょうか。それは、未來の地域を担う子供たちに郷土愛を育てることだと考えます。郷土愛を持つた子供たちが故郷に残り、地域の担い手になつていく、これがきっと持続可能な地域づくりにつながるはずです。

『来年度の北海道公民館 大会に開催に向けて』

釧路市教育委員会生涯学習部

次長 宮下 誠

一、初めに

十月六日、七日の二日間、鹿部町で開催された『第六十回北海道公民館大会』に参加し、社会教育についてしっかりと研鑽を図るとともに、全道各地はもとより、遠くは鳥取県から参加された方々と大いに交流させていただきました。

私は今年の四月に現在の所属に異動し、社会教育に関してはゼロからスタートで日々勉強する毎日であります。が、今回の大会はさまざまなくらいで、社会教育に関しての知識を習得し、社会教育に関しての先輩である多くの方々と話しをすることによって視野を広げようと思つと同時に来年度の大会開催地として、鹿部町の方々の大会運営状況をしっかりと勉強し、来年につなげようと意気込んで参加したところであります。

三、来年度の大会に向けて

今年度の大会はもちろん内容が充実しており、さらに大会運営に当たられた鹿部町の関係者の皆さんからの献

二、大会内容

初日は、開会式の後、文部科学省社会教育課長の西井知紀様からの行政説明があり、その後、各方面でご活躍の四名の方々がパネリストとなつてのパネルディスカッション、二日目は三つの分科会に別れての熟議と非常に内容の濃いものであります。という間に二日間が過ぎた感じがしました。この中で特に印象に残つてることは、二日目の分科会における玉井社長のお話でありました。やはり地方創生には強烈なリーダーシップをとる人材が必要なのだと改めて認識したところであります。

余談ではありますが、今大会で以前関わりの会つた二人の方と再会することが出来ました。立場は違いますが、若かりし時に一緒に仕事をした方と、自主的に活動していた町おこしグループで関わりがあつた方です。同じ志を持つて夢を語り合つた人が活躍する姿を見ることは大変感動深いものがありました。

身的な取り組みのおかげで、大変有意義なものであつたと感じており、来年度は今年の大会に負けないよう取り組が必要だと、今一度気を引き締め直したところであります。

釧路市での開催は平成十二年の第四十四回大会以来十七年ぶりであり、その間、釧路市は大きく変わっています。平成十七年には当時の釧路市、阿寒町、音別町の一市二町による合併があり市域は大幅に広がるとともに、各地域における課題もそれまで以上に多岐にわたることとなりました。人口減少にもなかなか歯止めがかかりません。市の財政も一時よりは持ち直したもの、依然として厳しいものがあり、その中で様々な課題を解決していくためには、一層の創意工夫によるまちづくりが求められています。一人一人が知恵を出し合つて限られた予算でいかに最大の効果を生むことができるかを考えなければならぬ時代となつてきています。

これは当市に限つた問題ではけしてなく、各自治体が共通して抱えている課題ではないかと思っておりそういう意味では、いかにしてこの創意工夫が出来うる人材を育てること



開催時期である十月の釧路は、秋晴れで高い青空がとても美しく、また太平洋の海の幸、阿寒地区などから収穫された山の幸がとても美味しい、まさしく『天高く馬肥ゆる秋』一年で一番良い季節であります。

特に、夕日は世界三大夕日の一つに挙げられるなど、観る人を魅了する素晴らしい光景であります。

その、一番良い季節を皆さんに存分に体感していただけるよう、そして参加者全員が大会に参加して良かったと感じられるよう、釧根支部の加盟自治体相互の連携を図りながら、力を合わせて、また心を込めて運営に当たりたいと考えております。

一人でも多くの皆様に参加いただけますよう、よろしくお願い申しあげます。

道教香通信

多様な人材の参画による 地域の教育支援充実のために

人口減少の加速化、グローバル化の進展、情報通信技術の発達など、社会環境が急激に変化する中で、教育をめぐる課題もますます複雑・多様化し、家庭や地域の教育力低下も指摘されているところです。

これらの課題の解決を図り、子どもたちに社会を生き抜く力を育むためには、学校・家庭・地域が互いの役割と責任を果たしながら連携・協働し社会が一体となって取り組むことが重要であると考えております。

員の会議」から、本年六月に、審議の内容を取りまとめた「提言」をいただいたところです。

北海道社会教育委員の会議では、「多様な人材の参画による地域の教育支援充実のために」をメインテーマとし、議論を進めるに当たって、まず、「社会教育」「社会教育委員」「社会教育主事」についての役割等について整理した上で、社会教育行政に関する各市町村の考え方などの実態調査を実施し、その調査結果を分析・検証していただきました。これらの調査結果から見えてくる

ものとして、

(1)社会教育の担い手不足が深刻であること、(2)地域を再生・創造すること、継者が育ちにくい環境であること、「学びの場」を拠点として実施される地域課題解決の取組の促進、支援の拡がりが求められていること、(4)新しい時代の社会教育行政の在り方が求められていることとの四点を挙げ、これらは検証結果を踏まえ、本道が抱える今日的な課題の解決方策について、地方創生を目指す観点から、道教委に対する次の五つの提言を取りまとめていただきました。

【提言1】全ての小・中学校に「地域連携担当教職員」として社会教育主事有資格教員を配置するなど、「地域とともににある学校」への転換

【提言2】大学等との連携により、社会教育主事講習の受講しやすい環境を整備し、全ての市町村教育委員会に社会教育主事配置

(発令)
【提言3】社会教育委員としての能力向上に向けた研修機会の支援と、研修機会を活用した広域的な委員相互の連携促進

【提言4】公民館等の社会教育施設を活用し、地方創生に向けた人づくり・地域づくりのための学習機会の実施支援の充実
【提言5】これまで以上に実効性のある社会教育行政の推進に向

けた連携の構築

特に、提言4においては、地域力の活性化のために公民館等、地域の「学びの場」を拠点として実施される地域課題解決の取組の促進、支援を行なう「地域力活性化コンファレンス」を挙げ、公民館等の社会教育施設による多様な事業展開の必要性があることから、これまでに全道・全国各地で地方創生に向け住民が主体となつて取り組まれ、成果を上げている好事例について、それぞれの地域における取組の参考にもなることから、道教委は積極的に情報提供する必要があります、との指摘をいただきました。

道教委といたしましては、今後、この提言の内容を踏まえた具体的な施策を推進するとともに、様々な場面を活用して関係者の方々に対する情報提供等に努めていきたいと考えております。

皆様には、今後とも引き続きのお力添えをお願いいたします。

本提言が、地方創生に向けた実践と、地域の人々が参画・協働するコミュニケーションづくりに寄与することを切に願っております。
(北海道社会教育委員の会議(提言)梶井議長「はじめに」より)

事業のご案内

○「地域生涯学習活動実践交流セミナー」

本道における生涯学習活動の一層の推進を図るため、実践事例の交流等を通じ、北海道における生涯学習活動推進上の課題解決を図る。

日時・会場
平成二十九年二月十六日(木)
～十七日(金)

にも、各地域での社会教育の課題について情報共有し、ともに分析することで新たな視点を拓いていくことが時代の変化に対応するためには効果的です。

本提言では、道内全市町村教育委員会への実態調査の結果をもとに、社会教育行政の課題や方向性を整理・分析し、今後目指す方向性について五項目にまとめてみました。お忙しい中、調査にご協力くださいました市町村教育委員会の皆さんには心より御礼申し上げます。

道立道民活動センターかかる2・7